

【NPO通信】

インドネシア教育振興会(6) 活動通じ自分も成長

2010年5月11日

インドネシアの教育問題などに取り組むインドネシア教育振興会(IEPF)。その活動を支える富山大の学生サークルの代表、新入生の二人に、それぞれの国際ボランティアについて話してもらった。

本年度、富山大学グローバルコミュニケーションネットワーク(i. n. g.)は、IEPFが実施する貧困地の小学校建設を支援します。

i. n. g. では「子どもたちの夢を育てようプロジェクト」と題し、大学内や地域の皆さまに、途上国の現状を発信し自分たちができることを考えるきっかけを提供します。

私は、活動を通してアースデイ参加やボランティア活動など、さまざまなイベントにかかわって来ました。

i. n. g. 前代表や、IEPFの窪木靖信さんには、海外での経験やイベントの企画・運営などを教えていただきました。さまざまな話から、自分が関心を持つ環境問題だけでなく、途上国の現状など多様な問題を多面的に考えることを学びました。

私はプロジェクトを通して、皆さまへの情報発信にとどまらず、当たり前の教育が受けられない子どもたちのために、i. n. g. ができる国際協力のあり方を模索し実践したいと考えています。(i. n. g. 代表・古川雄大)

私は今春、富山大学に入学し新しいことに挑戦したいと思っている時、サークル紹介で、i. n. g. の国際ボランティアを知りました。

今まで私は、テレビや新聞で海外のボランティア活動を目にする度に、協力してみたいと思う一方、「海外に行くお金も時間もない」「自分には関係のない話だ」と感じていました。

しかし、i. n. g. の活動を知り、身近に国際ボランティアをする団体があり、自分も参加するチャンスがあるのならと入部を決意しました。



今月5日に行われた、i. n. g. のミーティング＝富山市荒町で

一年生が多く入部したこともあり、一年生がIEPFとのスタディーツアーを企画・運営しています。参加者にとって良い経験になるようなツアーにしようと全員で努力しています。観光や文化体験も含め、小学校建設や図書館の開館式への参加を予定しています。現地の人々との交流もたくさんできればと考えています。

「自分には関係ない」と思っている人たちに少しでも私たちの活動を知ってもらい、世界の問題に目を向けてもらえるようにさまざまな活動をしたいです。未熟な点もありますが、i. n. g. の活動を通して成長していきたいです。(人文学部1年・中橋ゆきえ)

Copyright © The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.